

五
具
辨
入

特別
213
3633
2



若山
茶屋
書

13
8633
巻2(60)

序

圖書印

印

圖書印

也海とある海乃類なりしその道ハそ
つとつ井とらとのなるまハ絶る事ナ
くてもいふおぬき利句然や一なる種
と一糸人乃もそあさびものじと
おぬきおぬきおぬきの梢こころのこころなる
いふよぬきおぬきおぬきの海いふなる

序

多敷本くもあを感のうらむ志のほあねど
清音のあを感のうらむ志のほあねど
はりのみ葉をくよのあねとあなる
くよのあねとあなる志乃李史西施
貴妃のあねとあなる世海みあそよのあ
そくは律乃玉江は神縁ああね
あねとあなる志のあねとあなる

音小ねどそあねらうこのあねとあ
あねとあなる志のあねとあなる
水乃深くあねとあなる若縁あねとあ
あねとあなる志のあねとあなる
あねとあなる志のあねとあなる
あねとあなる志のあねとあなる
あねとあなる志のあねとあなる
あねとあなる志のあねとあなる

て二階にわづり出にれ柳くしけはる
おまこやがらるるこの持袖まきも又あひ
とどくと約やくしぬ書あけうそにぬけり
罷ま成りいふぬくひ一かへにけり
友とらこころこころまじく申まふ事
くへ身みを男おとこあつねくはやく
清きよりたつし何なにを裁きりおまそれよ

おまこもねぢあはれしはるる
しとくたもゆのくああ成りし
まのあつとねと一けつ息いきも妹いもうとの聖せいお
あしおれもね分ぶんはさるる

孝妹それの日



漂游總義

教たかの道みちも一ひとのくく女にょをを四よ方かたにに流ながれん。
 是こゝはは好このむむ氣き功こう者者賢けん男なんとと尸し解かいとといい我われはは所ところ
 よりよりここ津つののとと里さとへへ通とほひひははじじ足あし一ひと家か乃なり
 異かととききどどのの自みづか身みよよををくくりり子こ孫そん孫そんをを今いま
 裏うら白しろれれ時ときととななりり一ひと切き女にょ房ぼうのの仕し掛かけをを見み出だす
 揚あげげままるるぬぬああれれ門かど狭せまととたたののととややりりもも業わざ
 へへ入い敷しきとと見みせせううけけ町まちのの友とももも久く里さと乃なりとと

本州支要

漂游總義

一

この指品を借出はれ門番も知るとは
物やぬ末社までとほささちごひ又西の物も
らひさえ知るとはくなくかたはこほ今
さの物もほささちて懸るうくも
此修行の功ハ教りゆぐり乃六十万両
定まるべし一紙紙子になつておぼはれ
實のこひ出教一門の是れも物の有ゆい
物やぬ末社までとほささちごひ又西の物も

道ハせぬものさるゆつて世同なるもの
大長どもいふもこの一紙も賣錢し
はれたる紙しボのまふよ商賣もなりとふ
るがどはし強しもあるらふよいば
つやがととちちし皆にやぬらに時
てごうやんと此夜おのい立鴻原ら
水某師といふをよめて女多買乃時ふ
やう左教持乃法大長はるよ入や紙教

る所位公乃らうらうらまはと道入重お傳
 をいこやとなまきとるから後方、れと
 出し、もろくのほくおさとはのめいねも
 くれ世の中と素も素れれけ、たを故
 又短き羽織大は仕立衣裳を、人形巻いのやう
 如浴巾をかづらう男た、新有がうて、狂言は、法衣の
 分里賢男、ふりけん 又世間のんころ
 道に立入浮世男どもあこまめく、大合とほ

か、おあ、あ、い、内、徳、い、も、あ、ま、素、付、乃、よ、い、
 親に、か、ま、れ、じ、と、こ、に、い、分、身、る、大、鼓、が、は、は、を、
 素、座、た、び、ご、風、言、や、老、を、と、あ、そ、い、と、は、
 き、あ、あ、り、と、と、押、出、と、十、お、女、を、を、買、
 物、又、格、別、と、あ、よ、時、売、う、本、線、有、子、目、の、を、
 又、ハ、襟、垢、の、つ、と、た、る、衣、裳、も、好、う、は、な、れ、付、
 お、さ、天、織、の、ゆ、こ、成、る、中、と、と、と、又、是、に、お、と、
 ろ、い、以、身、に、蒸、は、き、と、人、も、あ、を、あ、る、お、ま、織

いふとてはたにち中をの程揚をれ下ぐ
まてもあめたおよのゆやういにくらるもく
とくわくも若までもの全自惚とてか
の男をせせと令浪の費はのぬげは
理ぬに舌は仕せても一なもほくらと
いふとてなそれつくあり後あるつとて
宿海まじの鼻乃先はまどくちまが居
あらしはさし身はつらみくろるやうにさ

て人にも恥も親の事も妻子乃及び
情て急費乃るるどりそれこそ通不
にありてい中しく程か乃是見てもさあ
ぬものなりおしふるは時大かれらありま
のやうとてさうあ費する令浪をたふ
半大かなり我未今あめくにおくを
いふの事とてござるあまは未熟な時我
友直れ知者れ女らにあふるは出と

てたより、是を口舌れた盛として、
乃教をいことぞあるは、日よひの
バ、ちつた十日とあるも、
てきてゆき、おのまは、
とい、素徳の衣裳、万事人よりよ、
とあり、女も、
茶社、
あ、

る、
の、
を、
を、
を、
を、
の、
の、

月又の言はれど物日るごとくをうづめぬ
でござれば我ぬいの務もくして女
い全盛してあるの如き事ある事
ひはのりて大は台して女をよに依
てのりあるを尾に染めの目又また
りらるるぬまをさぐる影起ゆのり
た女 いふ ちこそいふもどい余
強そいばさひはりこそいふ

女多も女の多の太長とこそいふ
まく いふ なるうらうらうの
うらあひと いふ けぬあて
あめら いふ 金箱をいふ
かりが いふ 分知とハアとぬ
かうに いふ ちと教らるれば
○ 未熟の太長 腎男に いふ ち
よそ いふ ハいせの費よな費を
本 仲 士 文 要 漂 海 總 義

てあそぶと、修る事には、ば、股何とも、醉
は、う、可へと、ぞん、ざん、と、始末して、片、時、を
か、う、の、ぬ、不、費、負、い、と、い、か、う、の、女、の、買、
と、い、は、し、内、み、居、て、十、を、終、盤、る、と、い、は、味、
乃、金、銀、と、る、が、増、なり、大、に、と、い、り、の、め、
万、事、大、中、の、い、も、今、日、の、り、り、の、も、と、い、
と、い、な、く、と、い、は、な、ら、う、い、は、な、ら、う、と、い、
と、い、ま、い、を、圓、れ、た、ら、う、の、町、で、買、は、る、

や、う、の、事、を、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、
か、し、な、い、の、事、を、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、
皮、の、事、を、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、
お、も、い、の、事、を、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、
お、も、い、の、事、を、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、
お、も、い、の、事、を、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、
お、も、い、の、事、を、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、
お、も、い、の、事、を、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、
お、も、い、の、事、を、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、
お、も、い、の、事、を、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、

本神支要

漂游總義

二

おこしや。但し我式力やうあ。んごのみあ
い。大信とるま。す。や。は。あ。ま。り。け。い。ぬ。り。う
ぬ。し。こ。り。い。づ。○賢男 善日 熱どろ男う。い。ま
い。神。對。面。の。い。ま。こ。ま。い。熱。と。い。ふ。う。い。ま。あ。り
京も大坂も。の。い。ま。あ。こ。ま。い。う。い。ま。あ。り。の
床。い。あ。ま。い。い。ま。い。ぬ。が。す。い。内。院。あ
人の。あ。ま。い。ぬ。あ。り。う。い。ま。あ。も。あ。り。て。ぬ
とも。ぬ。あ。ま。い。ぬ。あ。り。う。い。ま。あ。も。あ。り。て。ぬ

時。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。
あ。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。
せ。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。
い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。
風。俗。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。
ま。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。
と。ぬ。あ。ま。い。ぬ。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。
善。と。も。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。い。ま。あ。り。う。

さきづば人のほたる目。を男の身ぬら。
此方のぬら。いあをぶき。かきくも。
若もら。いあま。いあま。いあま。
あつて今ふかり。どき。いあま。いあま。
まか。いあま。いあま。いあま。
目もほい。いあま。いあま。いあま。
のま。いあま。いあま。いあま。
いあま。いあま。いあま。いあま。

うし。いあま。いあま。いあま。
ぬは。いあま。いあま。いあま。
あ。いあま。いあま。いあま。
あ。いあま。いあま。いあま。

